

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成22年6月17日(2010.6.17)

【公表番号】特表2009-535451(P2009-535451A)

【公表日】平成21年10月1日(2009.10.1)

【年通号数】公開・登録公報2009-039

【出願番号】特願2009-507790(P2009-507790)

【国際特許分類】

C 08 L 101/00 (2006.01)

C 08 F 2/44 (2006.01)

C 08 K 3/08 (2006.01)

C 08 L 33/04 (2006.01)

C 08 L 67/00 (2006.01)

【F I】

C 08 L 101/00

C 08 F 2/44 A

C 08 K 3/08

C 08 L 33/04

C 08 L 67/00

【手続補正書】

【提出日】平成22年4月26日(2010.4.26)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

磁気特性を有する異方性粒子を含有する固体表面材料の表面内に加飾パターンを形成する方法であって、

(a) 流動性固体表面材料中の磁気異方性粒子の少なくとも過半数を配向させる工程と、

(b) 前記流動性固体表面材料の表面領域の一部に磁界を誘導して磁気特性を有する前記粒子の配向を前記磁界中で変化させる工程と、

(c) 前記流動性固体表面材料を固化させる工程とを含むことを特徴とする方法。

【請求項2】

磁気異方性粒子を含有する固体表面材料の表面内に加飾パターンを形成する方法であって、

(a) 流動性固体表面材料中の磁気異方性粒子の少なくとも過半数を配向させる工程と、

(b) 前記流動性固体表面材料の表面領域の一部に磁界を誘導して磁性粒子の配向を前記磁界中で変化させる工程と、

(c) 前記流動性固体表面の表面をテクスチャ加工する工程と、

(d) 前記流動性固体表面材料を固化させる工程とを含むことを特徴とする方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 3 0

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0 0 3 0】

容器に付与された磁界は、実施例1に記載したのと同一のリニアな粒子再配向パターンをキャスト品中に形成するのに十分であった。

なお、本発明は、特許請求の範囲を含め、以下の発明を包含する。

1. 磁気特性を有する異方性粒子を含有する固体表面材料の表面内に加飾パターンを形成する方法であつて、

(a) 流動性固体表面材料中の磁気異方性粒子の少なくとも過半数を配向させる工程と

、  
(b) 前記流動性固体表面材料の表面領域の一部に磁界を誘導して磁気特性を有する前記粒子の配向を前記磁界中で変化させる工程と、

(c) 前記流動性固体表面材料を固化させる工程と  
を含むことを特徴とする方法。

2. 前記固体表面材料がアクリル樹脂で構成されることを特徴とする1に記載の方法。

3. 前記固体表面材料がポリエステル樹脂で構成されることを特徴とする1に記載の方法  
。

4. 前記異方性粒子のアスペクト比は少なくとも3のアスペクト比であることを特徴とする1に記載の方法。

5. 磁気特性を有する前記異方性粒子が、鋼、ステンレス鋼、ニッケル、およびそれらの組合せから選択されることを特徴とする1に記載の方法。

6. 磁気異方性粒子を含有する固体表面材料の表面内に加飾パターンを形成する方法であつて、

(a) 流動性固体表面材料中の磁気異方性粒子の少なくとも過半数を配向させる工程と

、  
(b) 前記流動性固体表面材料の表面領域の一部に磁界を誘導して磁性粒子の配向を前記磁界中で変化させる工程と、

(c) 前記流動性固体表面の表面をテクスチャ加工する工程と、

(d) 前記流動性固体表面材料を固化させる工程と  
を含むことを特徴とする方法。